

児童ほっと・ステーションの支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

21 日

法人（事業所）理念		生きるよろこび 育つよろこび					
支援方針		小中高校への入学、そして卒業。それぞれのライフステージを想定し、地域で自分らしく生活を送るために幼少期より様々な理解者を増やし、支えを得ることで豊かな生活を送ることが出来る環境を地域の中に創っていく。					
営業時間		9 時	0 分から	17 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	児童一人一人の正確なアセスメントを得るためには身体と心の健康状態を保つことが必要である。身支度や食事、排泄、遊び等の様々な生活スキルを獲得する上で多角的に児童を見る事で正確なアセスメントの獲得へとつなげる。					
	運動・感覚	楽しい遊びや活動の中で身体機能（体幹の安定性やバランス能力、協調性や巧緻性など）や感覚（触覚、固有覚、前庭覚）に関するアセスメントとなる。小さな成功体験を重ねることで子どもの自身に繋がり豊かな日常生活の構築に繋がる。					
	認知・行動	遊びや活動だけでなく様々な活動の中で得たアセスメントから児童一人一人に合わせた支援方法を実施する事で児童は多くの成功体験を得ることできる。成功体験を積み重ねる事で自己肯定感を高めるだけでなく、社会的な認知の獲得を目指す。					
	言語コミュニケーション	言葉は他者とコミュニケーションを解く方法の一つと言う位置づけ。初めは特定の支援者と密に関わる事で、他者と意思疎通が取れた事の嬉しさや楽しさを経験する事が第一歩。そうした経験を重ねる事で少しずつ児童を中心とした社会の構築がなされる。楽しく他者とのコミュニケーションをとることが重要であり、非言語的コミュニケーションスキル等も含め一人一人に合わせたコミュニケーションスキルの獲得も目指している。					
	人間関係社会性	児童との関わりの中での基礎となる部分と捉えており、最も必要な支援内容。関係性発達はあらゆる支援領域において充実を図るためにも必要である。児童一人一人のライフステージ、そのステージにおける社会の中でより多くの支援者となる人との関係構築を見据えておく必要がある。					
家族支援		年2回を基本としながら、保護者面談を実施。ご家庭における困りごと、保護者だからわかる些細な変化など保護者と共有することで、日々の支援に活かしている。			移行支援	常日頃より次のライフステージを見据えた支援を実施。状況に応じて、同法人内の居宅介護や生活介護と連携して情報共有を実施している。	
主な行事等		買い物支援：昼食購入、電車等の公共交通機関の利用。 季節の催し：節分やハロウィン、クリスマス等。法人開催の年末餅つき大会 地域の催し：どんぐり祭り。城東区SARUGAKU祭			職員の質の向上	毎週一回の支援会議だけではなく、適宜情報共有は欠かさずに行っている。また、法人内研修の参加や外部研修にも積極的に参加し、研修報告により最新の情報収集と共有を行っている。	
地域支援・地域連携		事業所内の支援を充実することが目標ではない。幼稚園や保育所への保育所等訪問支援、小中学校への聴き取りや支援内容の共有することでより自分らしく地域生活を送る支援につなげている。地域自立支援協議会への参加と部会の運営に携わり、地域における問題点の抽出と議論、対応策を実施している。					